2021-2022
WEEKLY BULLETIN
第2510地区
Rotary
札幌東ロータリークラブ
3月17日（木）第25号　第3006回 例会

本日のプログラム

新会員卓話　野地秀一 会員

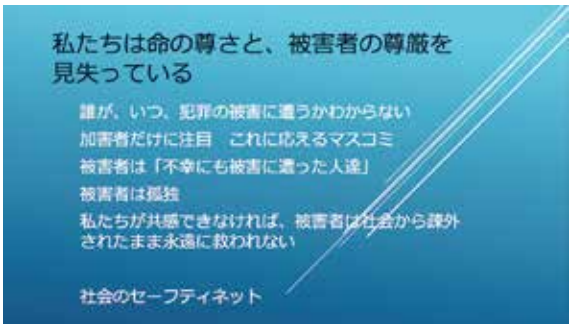
犯罪被害者はどうして救われないのか

札幌真駒内ＲＣ奉仕プロジェクト委員長　山田 廣 氏

１９９０年１２月１９日の夜、札幌市西区に住む信金職員の生井宙恵さん（当時２４歳）が惨殺されます。母親の生井澄子さん（当時５４歳）は、２年後に部屋に入り遺品に手を触れて誓います。「宙恵の命を無駄にはしない。親として出来ることは何でもする」。しかし、事件は２００５年１２月に時効により終了します。このままでは娘は救われない。澄子さんは、逃げている男を相手に賠償金を求める民事訴訟を起こします。裁判官に男を犯人と認めてもらい、賠償金の支払いを命じる判決書を仏前に供えたい一心でした。澄子さんは裁判の中で時効の廃止も訴えます。そして、他の事件の遺族らとともに時効廃止を求める運動に加わります。ついに、２０１０年に殺人の時効は廃止されました。

澄子さんは現在８５歳。しかし、今でも犯罪被害者を支援するシンポジウムで講演をし、また、道警の依頼により道内の中学、高校を回り、生徒らに遺族の気持ちを伝える活動を続けています。

２０１５年７月３日、札幌地裁８０５号法廷は異様な雰囲気に包まれました。傍聴席はすすり泣く声で溢れ、裁判員もみな涙します。検事の横に座っていた私も胸が熱くなりました。前年に発生した小樽ドリームビーチ飲酒ひき逃げ事件の公判です。この日は遺族らによる心情意見陳述が行われました。涙ながらに語る言葉は、家族への愛情で溢れ、事件の悲惨さを余すところなく伝えるもので誰もが胸を打たれました。



男女９名が殺害された座間事件（２０１７年）の遺族全員、またクリエイターら３５名が放火により焼死した京アニ事件（２０１９年）の遺族２１人は、亡くなった家族の実名を公表しないよう強く希望します。なぜでしょうか。それは、遺族それぞれの心の中の弔いのプロセスが妨げられるからです。しかし、警察は遺族の気持ちより公益性を優先し全員の実名を公表します。

娘への誓いを一生果たそうとする澄子さん、法廷で泣きながらに娘への心情を語る小樽事件の遺族、家族の名前を公表しないように願う座間事件や京アニ事件の遺族は、私たちに一体何を訴えているのでしょうか。それは、今私たちが見失っている命の尊さと、被害者の尊厳に他なりません。近時の事件を見ても、誰が、いつ、どこで犯罪の被害に遭うかわかりません。しかし、私たちは加害者だけに注目し、被害者に対しては傍観者でいます。被害者は孤独です。私たちが遺族の叫びに耳を傾け、共感することが出来なければ、被害者は社会から疎外されたまま、永遠に救われません。

被害者を支援するということは、人道的奉仕活動であるとともに、私たちが安心して生活できる社会を構築するための活動でもあります。社会のセーフティネットとして被害者支援を考えていただければ幸いです。

SERVE TO CHANGE LIVES

■本日のロータリーソング
我等の生業

2021～2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ